

## —編集後記—

第152号は放射性物質特集の掲載号となりました。ページ数以上の重みと思いを抱いて受け取られる方は多いのではないかと思います。中心になって取り組んでいる、そしてそれを直接的・間接的に支えるすべての方々に敬意を表します。

地震ばかりでなく豪雨、渇水、異常高温、異常低温など平年値とは何なのかと思うようなことが毎年、そして複数の地域でおこるようになっていきます。学生の頃、モデル試験の降雨設定で「そんな現実的でない設定ばかりにするから（確か50, 100 mm h<sup>-1</sup>を入れた），“モデル”と言われてしまうのだ。」とコメントされたことを強烈に覚えています。一方で、「想定外を試せることがモデル試験の良いところ。」とも言われました。現実の雨の

下では、“モデル”でよかったのにと呟くばかりです。

あまりに変化が大きいと、無感動・無感覚に近づいていくような心持ちでいましたが、先日参加した土壌物理学学会大会では、集まっているポスター発表のテーマの振れ幅、シンポジウムテーマと日頃の私の頭の中との振れ幅に沸き立つものを感じました。学会誌の内容に振れ幅があることも沸き立つ方の部類であろうと思います。今期編集委員での発行は、残るところあと一号ですので、一会員として、多方面のテーマからのご投稿を楽しみにしております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

中野恵子（編集委員）

土壌物理学会				
事務局構成	会 長	取出 伸夫	三重大学 大学院生物資源学研究科	
	副 会 長	諸泉 利嗣	岡山大学 大学院環境生命科学研究科	
	事務局長	渡辺 晋生	三重大学 大学院生物資源学研究科	
	庶務幹事	小島 悠揮	岐阜大学 工学部	
	庶務幹事	廣住 豊一	四日市大学 環境情報学部	
	編集幹事	亀山 幸司	農研機構 農村工学研究部門	
	会計幹事	坂井 勝	三重大学 大学院生物資源学研究科	
	会計監査	岩間 憲治	滋賀県立大学 環境科学部	
	編集委員会	委 員 長	水谷 嘉之	三重県 農業研究所
			宮本 輝仁	農研機構 農村工学研究部門
委 員		朝田 景	農研機構 農業環境研究部門	
		岩田 幸良	農研機構 農村工学研究部門	
		小林 政広	森林研究・整備機構 森林総合研究所	
		坂口 敦	山口大学 大学院創成科学研究科	
		千葉 克己	宮城大学 事業構想学群	
		常田 岳志	農研機構 農業環境研究部門	
		中野 恵子	農研機構 九州沖縄農業研究センター	
		濱本 昌一郎	東京大学 大学院農学生命科学研究科	